

かなざわ次世代エネルギーパーク

金沢市では「エネルギー自立都市」の実現に向けて、これまで個々に再生可能エネルギーの導入を進めてきましたが、まち全体を『かなざわ次世代エネルギーパーク』と位置づけ、再生可能エネルギーの導入計画を総合的に展開し、「金沢らしい」次世代エネルギーのあり方を広くアピールするものであり、平成26年度に認定されました。

西部環境エネルギーセンター

ごみの焼却で発生する熱を利用した廃棄物発電をおこなっています。発電した電力は施設内で利用するほか、市本庁舎、金沢21世紀美術館などの市有施設へ送電利用しています。また、余熱利用として施設内や近隣施設に温水を供給しています。「見て・ふれて・学べる」環境学習コーナーを備えた拠点施設です。

新エネルギーの種類 **バイオマス・太陽光**
(廃棄物)
最大発電出力(バイオマス) **7,000kW**
最大発電出力(太陽光) **15kW**



戸室リサイクルプラザ

タマゴ型の特徴ある建物屋上にある太陽光発電は、施設使用電力の約半分をまかなっています。また、太陽熱で発生した温水は施設内の浴場でも利用しています。3Rを楽しく学べる展示コーナーもあります。

新エネルギーの種類 **太陽光・太陽熱・風力**
最大発電出力(太陽光) **70kW**
最大出力(太陽熱) **105,000kcal**
最大発電出力(風力) **0.3kW**



城北水質管理センター

下水処理の工程で発生するバイオガスを有効利用した発電施設。発電した電力は施設内で使用しています。また、発電時に発生する熱は下水消化タンクの加温に有効利用しています。下水処理のしくみを学ぶこともできます。

新エネルギーの種類 **バイオマス・風力・小水力**
(消化ガス)
最大発電出力(バイオマス) **200kW**
最大発電出力(風力・小水力) **各2kW**



次世代エネルギーパークの3つの拠点

「ゼロカーボンシティかなざわ」を目指して

加賀百万石の城下町として栄えた金沢。藩政期から受け継がれた伝統文化と心配りが今なお暮らしの中に息づいており、城下町としての風情と美しさが色濃く残っています。本市では、2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取組みのひとつとして、東西環境エネルギーセンターにおいてごみ焼却時に発生する焼却熱を利用して発電された環境価値(二酸化炭素排出ゼロ)を含む電力を市役所本庁舎や金沢21世紀美術館などの市有施設で活用することにより、温室効果ガス排出量の削減を図るとともに電力の地産地消を推進しています。



市役所第一本庁舎



市役所第二本庁舎

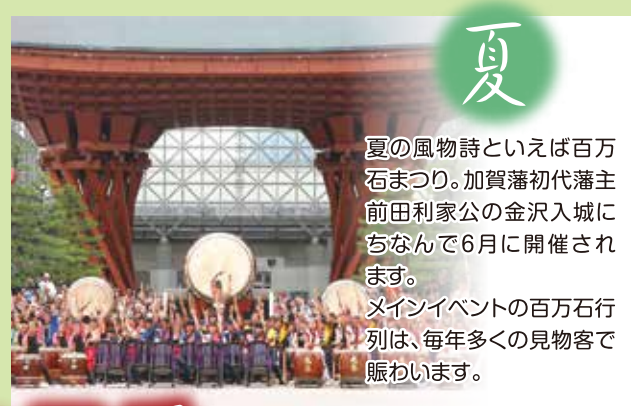


金沢21世紀美術館



春

金沢には、金沢城公園や兼六園、犀川や浅野川の河川敷、卯辰山など多くの桜の名所があります。桜以外にも、ツツジやカキツバタなどが春の金沢を彩ります。(金沢城公園)



夏

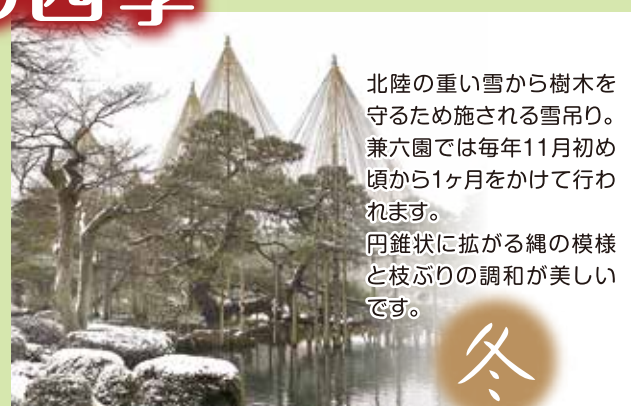
夏の風物詩といえば百万石まつり。加賀藩初代藩主前田利家公の金沢入城にちなんで6月に開催されます。メインイベントの百万石行列は、毎年多くの見物客で賑わいます。

金沢の四季



秋

中心部では金沢城や兼六園周辺で美しい紅葉が見られ、カエデやイチョウが次々とまちを染め上げます。しっとりとした紅葉を楽しむなら郊外の大乗寺などもお勧めです。



冬

北陸の重い雪から樹木を守るため施される雪吊り。兼六園では毎年11月初め頃から1ヶ月をかけて行われます。円錐状に広がる縄の模様と枝ぶりの調和が美しいです。

【お問い合わせ】 金沢市環境局 環境政策課 ゼロカーボンシティ推進室
〒920-8577 金沢市柿木畠1番1号 金沢市役所第二本庁舎1階 電話076-220-2507 FAX 076-260-7193

2023年3月発行



「ゼロカーボンシティかなざわ」の実現に向けて

かなざわ次世代エネルギーパーク

